

これまでの取組内容

令和4年8月（共同研究の開始）



受け手に合わせた分かりやすく親しみやすい行政文書の作成をめざして、一橋大学の庵教授をはじめとする言語学の専門家グループと共同研究を開始しました。
（協定期間：令和4年8月～令和5年11月）

令和4年8月（やさしい日本語コミュニケーション研修の実施）



株式会社メルカリとのコラボにより、職員向けに「やさしい日本語コミュニケーション研修」を実施しました。
研修を通じて、相手に寄りそうコミュニケーションを学びました。

令和4年9月（文書改善プロジェクトの開始）

共同研究の一環として、区の職員32名が参加し、実際の区民向け文書を受け手に合わせた分かりやすく親しみやすい文書に変えていく文書改善プロジェクトを開始しました。

分かりやすい公用文の作成のスペシャリストである聖心女子大学の岩田教授にアドバイザーを務めていただき、アドバイザーによるキックオフ研修を実施しました。

令和4年9月（区政モニターアンケート調査の実施）

区政モニター766名に対し、区の情報発信に関するアンケートを実施しました。アンケートにより、約5割の方々が「情報量が多すぎて、意味が取りにくい」「さっと読んでも全体の意味が理解できない」など、区の情報発信に不満を持っていることが分かりました。

令和4年9月、10月（町会・自治会インタビュー調査の実施）

共同研究の一環として、町会・自治会（15団体（29名））に対し、実際の区の文書を見せ、どのような印象を受けるかインタビュー調査を実施しました。

町会・自治会からは「字の大きさなど、対象者に向けた文書とは思えない」、「情報量が多く、読む気にならない」などの意見がありました。

令和4年11月（中間相談会及び激励会の実施）



文書改善プロジェクトにおいて、アドバイザーに現状の報告及び相談を行う場として、中間相談会を実施しました。

また、参加メンバーの意欲をより一層高めるために、区長による激励会を実施しました。

令和4年11月（区民アンケート調査の実施）

無作為抽出した区民3,000人に対し、区政モニターと同様のアンケートを実施しました。

アンケートにより、区政モニターと同様、約5割の方々が「情報量が多すぎて、意味が取りにくい」、「さっと読んでも全体の意味が理解できない」など、区の情報発信に不満を持っていることが分かりました。

令和5年3月（デザイン研修の実施）



デザインの専門家を講師に招き、職員向けに「デザイン研修」を実施しました。

研修を通じて、デザイン、情報発信ともに、対象者を明確に、情報を絞って伝えることの必要性を学びました。

令和5年3月（成果発表会の実施 文書改善プロジェクトの終了）

文書改善プロジェクトにおいて、これまで検討を行ってきた改善の成果を、区長及びアドバイザーに発表する場として、成果発表会を実施しました。

令和5年3月（シンポジウムの開催）



伝わる日本語の取組を、区民及び区内の企業、団体等へ普及させるとともに、他自治体へ広く発信することを目的に、シンポジウムを開催しました。

シンポジウムの中では、基調講演、共同研究の中間報告、パネルディスカッションを行いました。

令和5年5月、6月（町会・自治会インタビュー調査の実施）

令和4年度に引き続き、町会・自治会（14団体（32名））に対し、令和4年度のインタビュー調査での意見を踏まえ、区と専門家で改善を行った文書を見せ、どのような印象を受けるかインタビュー調査を実施しました。

町会・自治会からは「対象が明確でよい」、「シンプルで分かりやすい」、「全体的に一目で内容が分かりやすい」などの意見がありました。

令和5年5月、6月（区民アンケート調査の実施）

無作為抽出した区民3,000人に対し、共同研究において改善した文書を用い、改善前と改善後の文書についてそれぞれどのような印象を受けるかアンケート調査を実施しました。

アンケートにより、約6割～7割の方々が、情報量やレイアウトなどの様々な面で改善後の文書の方が良い印象を持っていることが分かりました。

令和5年7月（文書改善プロジェクトの開始）

令和4年度に引き続き、今回は11の部署が参加し、実際の区民向け文書を受け手に合わせた分かりやすく親しみやすい文書に変えていく文書改善プロジェクトを開始しました。

アドバイザーには引き続き岩田教授に務めていただき、アドバイザーによるキックオフ研修を実施しました。

令和5年7月（プレゼンテーション研修の実施）



ソフトバンク株式会社とのタイアップにより、職員向けに「プレゼンテーション研修」を実施しました。

研修を通じて、結論は最初と最後に、細かい内容は別資料に、スライドは1ページに1メッセージなどのテクニックに加え、様々なこと考えて資料を作り出すことが必要との考え方についても学びました。

令和5年8月（管理職向け伝わる日本語研修の実施）



岩田教授をお招きし、管理職員に対して、「管理職向け伝わる日本語研修」を実施しました。

研修を通じて、伝わる日本語の重要性やポイントを職員一人一人が理解し、実行していくことが大事、行政からの文書は分かりやすくなければ読んでもらえないなど、行政文書の実態を通じて、伝わる日本語の必要性を学びました。

令和5年9月（メディアの視点から考える伝える日本語研修の実施）



元NHKの報道記者である文教大学の井上准教授をお招きし、職員向けに「メディアの視点から考える伝える日本語研修」を実施しました。

研修を通じて、内容が分かる見出しにしなければ区民は情報を見てくれない、見出しに述部を入れることで内容が伝わりやすくなる（○△により××します）などのテクニックに加え、情報発信のプロであるメディアでも日々悩み解決策を模索している現状があることを学びました。

令和5年9月（中間発表会の実施）



文書改善プロジェクトにおいて、アドバイザーに現状の改善内容を発表する場として、中間発表会を実施しました。

令和5年10月（デザイン講評会の実施）



文書改善プロジェクトにおいて、より良い改善の成果を挙げるため、デザインの専門家から講評を受ける場として、デザイン講評会を実施しました。

令和5年12月（成果発表会の実施 文書改善プロジェクトの終了）



文書改善プロジェクトにおいて、これまで検討を行ってきた改善の成果を、区長及びアドバイザーに発表する場として、成果発表会を実施しました。